

令和二年度在宅サービスセンター事業報告

在宅サービスセンターは、浴風会の基本理念の一つである「地域との協働と社会貢献」の実現に向けて、「通所介護事業」と「認知症対応型通所介護事業」の各事業に取り組んだ。

一方で地域の高齢者のフレイル予防や交流の場を提供してきた「みんなの生き生き健康教室」「ももの木トレーニング」は、新型コロナウイルス感染症の拡大の中で中止を余儀なくされた。

令和2年2月以降の新型コロナウイルス感染拡大において、通所介護事業が地域における在宅生活を支えるための重要なサービスであるとの観点から、出来る限り事業の継続を目指した。毎回ご利用者の乗車前に非接触型体温計にて検温を行うなど体調の把握を行い、適切な感染対策を実施した上で、サービス提供に努めた。一部営業自粛や休業を決めるデイサービス事業所もある中で、デイサービス事業の継続はご家族やケアマネジャーからも好意的な評価を受けた。しかしながら一方で不要不急な外出の自粛という国や行政の呼びかけもあり、ご利用者、ご家族の判断として利用の自粛も一定程度発生するに至った。

1 お客様の状況

(1) お客様の概況

(3年3月31日現在)

事業区分	一般通所介護事業		地域密着型認知症対応型 通所介護事業	
	元年度	2年度	元年度	2年度
年 度 別	元年度	2年度	元年度	2年度
定 員	40名	40名	12名	12名
年間延べお客様数	8,755名	7,426名	2,819名	2,628名
1日平均お客様数	31.0名	26.3名	9.2名	8.6名
利 用 率	71.5%	61.1%	79.5%	74.1%
新規契約者数	28名	7名	13名	15名
契約終了者数	32名	28名	15名	10名
年度末契約者数	98名	80名	28名	28名

※認知症対応型通所介護は、サービス提供時間延長分を換算。

(2) 介護度の状況

(3年3月31日現在)

事業区分	一般通所介護事業				地域密着型認知症対応型 通所介護事業			
	元年度		2年度		元年度		2年度	
月平均	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
要介護5	2	1.9	2	2.5	9	32.1	8	25.0
要介護4	5	4.9	3	3.8	2	7.1	2	6.4
要介護3	9	8.8	11	13.8	7	25.0	11	34.4
要介護2	25	24.3	14	17.5	3	10.7	6	18.6
要介護1	48	46.6	40	50.0	7	25.0	5	15.6
要支援2	3	2.9	3	3.8				
要支援1	11	10.6	7	8.8				
合計	103	100.0	80	100.0	28	100.0	32	100.0

2 施設運営の実施状況

1. 南陽園在宅サービスセンター

1 運営の基本方針

ア サービス計画に基づくサービス提供

アセスメントに基づいたひとり一人のニーズに応える通所介護計画、及び個別機能訓練計画を策定し、定期的なモニタリングを実施してサービスの提供に当たった。

サービスプログラムは、機能訓練の他唄やゲームなどのレクリエーション、紙細工などのアクティビティ、散歩等がある。

イ 居宅での生活継続支援

ご家族ニーズに沿って毎日曜日、大晦日、正月3が日を除いて営業し、実施日数は306日であった。

ウ 地域ケアマネジャーとの連携強化

担当ケアマネジャーや他のサービス事業所担当者が参加するサービス担当者会議に38回参加し、関係機関との連携を深めるように努めた。

エ 積極的な情報公開

ホームページを随時更新し、情報公開を行った。

2 各サービスについて

(1) デイサービス（認知症対応型通所介護事業）

- ① 年間平均利用率は 74.1%（時間延長換算分を含む）だった。3 月に新型コロナウイルスによる利用自粛の影響を受け、目標 80%を下回る結果となった。とりわけ 4 月～5 月期、また都内感染者がピークを迎えた 12 月～1 月期については、20～25%の落ち込みが見られた。主な要因は感染拡大による利用自粛があったことが大きい。なお時間延長ご希望のお客様には 7 時間のサービスを提供した。
- ② 新規契約数は 14 件であり、令和 2 年 3 月末現在の契約者数は 33 名である。なお、契約終了者は 10 名で、内訳は施設入所 4 名、死亡 4 名、その他 2 名であった。
- ③ ご希望の高い入浴サービスについては、可能な限りニーズに応え、実施した。
- ④ 個別機能訓練計画に基づき、歩行訓練、関節可動域訓練、体操などを実施した。エアロバイク等のリハビリ機器も活用し、お客様の脚力の維持・強化に取り組んだ。
- ⑤ 実施行事

4 月	お花見週間	12 月	年忘れ会（中止）
7 月	七夕会	1 月	新年会（初詣）（中止）
8 月	納涼会（中止）	2 月	節分
9 月	敬老会	随時	誕生祝

⑥ ボランティアの受け入れ

ボランティアに関しては、新型コロナウイルス感染症における飛沫感染予防の観点から、一部活動を停止またはボランティアご自身による活動自粛があった。ご協力いただけるボランティアについては、職員同様の日常的な感染対策を求めて、活動の継続を依頼した。

利用者支援ボランティア

104 回

⑦ 運営推進会議

杉並区、地域包括支援センター職員、居宅介護支援事業所ケアマネジャー、地域住民代表、ご家族が参加する運営推進会議については、6ヵ月おきの開催が求められているが、令和元年10月に開催したのを最後に直接対面での開催が出来ず、全て文書による報告に切り替えている。

⑧ 災害時対策（災害伝言ダイヤル）

N T T東日本が災害時、臨時開設する「災害伝言ダイヤル」を活用し、電話が繋がらない状況でも、ご家族の不安を軽減出来るよう、お客様の安否や送迎の変更などを伝言にて、ご家族に報告出来るようにしている。

(2) みんなの生き生き健康教室

高齢者用の筋力向上トレーニングマシンを使用した「みんなの生き生き健康教室」を独自事業として浴風会コミュニティホールにおいて継続実施されてきたが、令和2年度全体を通して同ホールの外部貸出が停止されたことを受けて中止せざるを得なかった。

(3) 自主教室「ももの木トレーニング」支援

南陽園と共同して5台のトレーニングマシンを活用し、南陽園機能訓練室を使用して毎週水曜日午後、月2回土曜日午後を実施していた「ももの木トレーニング」教室も、少人数の完全予約制での再開を目指したが、何波にもわたる感染拡大、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出を受けて結局再開することが出来なかった。

(4) 社会貢献活動（法務省保護局から依頼）

近隣に居住される、保護観察中の方々（保護司付き添い）にボランティアの場を提供し、社会に貢献できるという意識や社会のルールを守る意識を育む活動に協力しており、令和2年度も予定していたが直前に中止となった。

2. 第二南陽園在宅サービスセンター

1 運営の基本方針

ア サービス計画に基づくサービス提供

お客様の生活状況等についてスタッフ間で情報共有を図り、居宅サービス計画に基づき自立支援の観点からサービス計画を立案し、サービス提供に

努めた。

イ 地域ケアマネジャーとの連携強化

在宅におけるケアマネジャー主催のサービス担当者会議（照会を含む）へ参加し連携を図ると共に、お客様の日常生活の維持改善のために通所介護計画を作成し、アクティビティ活動、運動機能向上のための訓練などを実施した。

ウ 居宅での生活継続支援

日常生活動作に不安を感じられたお客様に対して、デイサービスとしても介護用品・福祉機器の利用などその改善策を提案し、ご家族の介護負担の軽減、居宅での生活継続につなげた。

エ サービスニーズの把握

サービス担当者会議（照会を含む）や各種カンファレンス等の機会を活用し、サービスニーズの把握に努めた。引き続き、要望が多い入浴サービスの提供にも努めた。

オ 接遇マナーの向上

日々のスタッフミーティング、または定例の職員会議の際に、お客様ご家族からの要望や苦情について検討し、サービスマナーの向上につなげた。

カ サービス情報の積極的公開

ホームページや会誌を通じて日常活動状況の情報発信を行った。

キ 安定的経営の努力

毎月の利用率の集計、分析を行うことで通常規模型通所介護の基準である月上限 750 名を超えない範囲でのサービス提供を行い、昨年度は月 618 名であった。

令和 3 年度に向けて事業規模の縮小を行い、送迎体制および職員配置の見直しなど支出の削減に努めたが、依然として厳しい経営環境にある。

2 各サービスについて

1) デイサービス（通所介護事業）

- ① 第二南陽園在宅サービスセンターでの事業実施日数は 308 日、年末年始を除く月曜日から土曜日まで実施した。令和 2 年度新規契約者は 8 名で

あった。

- ② 契約終了の方は 28 名おられ、令和 3 年 3 月 31 日現在の契約者数は 80 名となっている。なお、契約終了者の内訳は、長期欠席 3 名、対象地域外への転居 1 名、他の通所介護サービスへの移行（地域密着型認知症対応型通所介護を含む）10 名、老人保健施設入所 2 名、特別養護老人ホーム入所 1 名、有料老人ホーム入所 5 名、死亡 6 名であった。

利用者の一週間における平均利用契約回数は 2.0 回であった。

- ③ 自宅での入浴が困難な方や何らかの理由により在宅での入浴に不安のある方について入浴サービスを実施した。年 308 回実施し、延べ 2,022 名の利用があった。
- ④ 軽度認知症と診断されている方であってもサービス提供を行っているが、大勢の中での活動が困難な方や、個別の支援が必要な方などについては認知症対応型通所介護への移行をケアマネジャーに提案し、連携しながら円滑な移行に努めている。
- ⑤ 活動は、お客様の希望や体力測定の結果、計画書の目標に添って選択していただき、身体機能の低下が認められる箇所の維持向上を目的としたプログラムを実施した。
- ⑥ お客様に提供されるサービスの内容確認などを含め、担当ケアマネジャーや他のサービス事業所担当者が参加するサービス担当者会議に令和 2 年度は 13 件参加し、関係機関の連携を深めるように努めた。

⑦ 実施行事

4 月	お花見会	12 月	年忘れ会
5 月	新茶の会	1 月	新年会
7 月	七夕会、納涼週間	2 月	節分会
9 月	敬老週間	3 月	防災訓練
10 月	園庭散歩	当日	誕生日会

⑧ ボランティアの受け入れ

(1) 活動講師

絵手紙指導、俳句、生け花（フラワー）は感染症対策のため受け入れを中止した。陶芸のみ 1 回（1 名）実施した。

(2) 行事の援助

音楽ボランティア、レクリエーションボランティア、その他ボランティアについても、感染症対策のため受け入れを中止した。

⑨ 職員研修参加状況

職員の質の向上を目的として、専門知識や技術の習得のため、施設内外の研修に参加するように努めた。

その他諸研修	2回	延べ出席者数	5名
--------	----	--------	----